

執筆の手引き－『学校音楽教育実践論集』（大会関連）－

I 原稿の種類と提出方法

「個人研究」「はじめに」「課題研究」「プロジェクト報告」等の原稿については、**執筆依頼に記載されている流れに沿って**それぞれの提出方法によって電子メールに添付して提出する。執筆の詳細については、執筆依頼時に手渡しする資料を参照する。

II 注意事項

1. **学会ホームページに掲載されている原稿フォーマットをダウンロードし、それに上書きをする。**別
に書いたものを書式に貼りつける時は「書式を結合」を選択。「元の書式を保持」にするとレイアウトが崩れる可能性がある。
2. ・「はじめに」はA4版で、23字×43行の2段組、半ページ（2分の1ページ）で書く。
・「個人研究」「プロジェクト報告」は、23字×43行の2段組、2ページ（図表、注などを含む）とする。それ以外のページ数については、編集委員会が指定する。
3. 本文のフォントは、原則として「MS 明朝」を使用し（「MSP 明朝」は使用しない）、本文中の英数字は注も含めて全て半角（フォントは Century）とする。
4. 図、写真、楽譜等は、それらの下に番号とタイトル（図1 ...）、表は、表の上に番号とタイトル（表1 ...）を明示する。番号とタイトルのフォントは「MS ゴシック」とし、センタリングする。
5. 注は各原稿の最後に、引用の順に列記する（自動脚注は使わない）。参考文献がある場合は、各原稿の最後に（注がある場合は、注の後に）列記し、2行目以降は頭位置を1字下げて記載する。
注及び参考文献のどちらも、フォントポイントは9にし、行間は本文と同じにし、狭めない。
 - ・ 雑誌の場合：著者名(発行年)「表題」『雑誌名／紀要名』発行者名、巻号、ページ
 - ・ 単行本の場合：著者名(発行年)『書名』発行所、ページ
 - ・ 辞典・事典の場合：責任執筆者名(発行年)「表題」編纂者『辞典・事典名』発行所、ページ
 - ・ Web 情報の場合：責任執筆者名「表題」発行所、URL（最終閲覧年月日）

《注の書き方の例》

- 1) 大阪花子(1998)「音楽教育の方法」『学校音楽教育研究』日本学校音楽教育実践学会、第5巻, pp. 22-26
- 2) 大阪太郎(2000)『日本の音楽教育』大阪堂, p. 13
- 3) 音楽花子(2018)「音楽教育の歴史」音太郎編『音楽事典』大阪出版, p. 100
- 4) Taylor, W. (1998) *The Music*, Oxford University Press.
- 5) Reime, G. H. (2001) 'Study of Music'. In Jackson, P. (ed), *Handbook of Education*, Macmillan, pp. 400-450
- 6) 東京花子「音楽教育のこれから」音楽教育実践学研究会, <http://www.ongakujissen.com/>（最終閲覧日 2020 年 3 月 31 日）

*本文中の注番号は、該当箇所の語句の右肩に ① ② のようにつける。

[例] ...として位置付けられていることが多い①。△△は次のように述べている。「○○○○○」②。

《参考文献の書き方の例》

大阪花子(1998)「学校音楽教育における実践的アプローチの意義」『学校音楽教育実践論集』日本学校音楽教育実践学会、第1号, pp. 32-33

Reime, G. H. (2001) 'Study of Music'. In Jackson, P. (ed), *Handbook of Education*, Macmillan, pp. 400-450

III その他

1. 文章中の表記の統一を図ること。(例：子ども、こと（事）など)。
2. 個人情報の保護と人権の尊重、著作権の扱いに留意して執筆する。文中の人名等、特定されないように配慮すること。
3. 実践事例を扱う場合は、個人情報の保護に留意し、実践場所、実践時期、実践者、研究倫理的な手続きについて、本文中または付記に明示する。また、収録物（楽譜、写真等）の著作権使用については所定の手続きをとること。
4. 「個人研究」に掲載する研究論文は、「目的」「結果」「方法」「内容」の順に要点的に簡潔に書く。「目的」と「結果」はそれぞれ10行程度で書く。
5. 提出前に完成原稿をB5に縮小印刷して目視し、図表等の視認性を確認した上で提出する。